

# 新しい歴史学習—近世を大観する学習

鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 梅津正美

## 1 授業づくりの視点

「時代を大観する学習」について、平成20年3月改訂の学習指導要領（以下、新要領）では「内容（1）ウ」で「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」と定めている。さらに「内容の取扱い（2）ウ」で、その学習は「各時代の学習のまとめとして実施することを原則」とするが、「その際、各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成した上で」展開するものと記している。

新要領の趣旨をふまえると、「時代を大観する学習」の授業づくりの視点として、次の4点を導くことができる。第1に、学習目標と関わって、生徒が、各時代の特色と歴史の大きな変化をつかみまとめる学習として展開すること。第2に、学習内容と関わって、「まとめ」の学習として、大項目レベルの時代の学習の「導入」および「展開」（各中項目の学習）と内容がつながっていること。第3に、学習方法と関わって、生徒の表現（言語）活動が組み込まれていること。第4に、時間配当に関わって、まとめの学習として1～2単位時間程度で展開できることである。

## 2 「近世を大観する学習」の授業づくり

### （1）授業づくりの手だて

「歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏

まえて理解させる」とともに、「思考力・判断力・表現力を育成する」という目標と結んで、授業づくりの基本的な手だてを定めたい。

学習内容の構成について、近世社会の本質（近世の特色）をとらえた知識内容とその事例とを設定する。そして、①事例が示す「事実」、②諸事実間の「関係」、③近世社会の「本質」（大観した時代の特色）の相互の結びつきとして学習内容を構造化する。

授業の過程は、事例が示す事実を概括して近世の特色をつかみまとめる段階から、時代の事象間の因果や条件結果の関係、あるいは前の時代からの変化を結びつけ説明する段階へと展開するように組み立てる。

学習方法として、個人あるいはグループで学習問題に対して考えたことを文章や関係図などにまとめ、その成果についてクラスで意見交換する表現活動を組み込む。

### （2）授業の展開例

平成24年度用教科書『社会科 中学生の歴史』（以下、新教科書）のp.131をもとに、ひとつの授業展開例を示すことにする（2単位時間配当）。

### パートI：「武士による支配」という視点から近世の特色をまとめる学習

新教科書p.131「作業4」に掲載されている2枚の絵を教材として、「近世の武士の立場は前の時代と比べてどのように変化したでしょうか」と発問する。この発問は、個々の

生徒が考え発表する。

①戦国時代 戦場で戦う武士(『川中島合戦図屏風』)

②江戸時代 長崎で積み荷を確認する武士

武力によって支配者となり政治を行う武士から、江戸時代には武力をふるわず経済や外交の才覚によって政治の安定に尽くす武士へと立場が変わった。

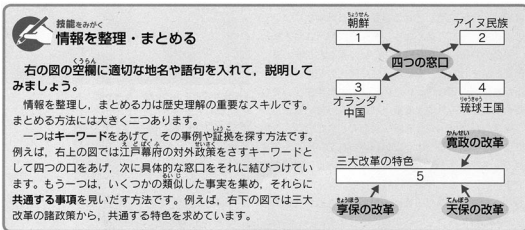


「社会科 中学生の歴史」 p.131作業 4

『近世は、( )の時代である。』という表現で、近世の特色を説明してみなさい」と発問し、生徒個々の意見を交換する。

近世は、武断政治から文治政治への移り変わりが見られた時代である。

「その変化は、どのような幕府の政策や国際情勢と関わっているか、これまでに学習した内容を活用して関係図をつくり、それをもとに説明してみましょ」と発問する。関係図は、新教科書p.131「技能をみがく」を参考に作成する。生徒は、自分で作成した関係図をもとに意見を交換する。



「社会科 中学生の歴史」 p.131

(近世にみられた変化と関わる知識として)

- ・ 武家諸法度を定め、大名を統制した。
- ・ 幕府による貿易統制のもと、「四つの窓口」を通じて、中国、オランダ、琉球、アイヌ、朝鮮との間に幕府中心の国際関係をつくり出した。
- ・ 兵農分離によって、武士と百姓・町人とを分ける身分制度が確立した。

## パートⅡ：「都市での町人のくらし」という視点から近世の特色をまとめる学習

新教科書p.115の「越後屋の店内(奥村信画『駿河町越後屋呉服店大浮絵』より)と「駿河町街路(『熙代勝覧』より)」の2枚の絵を教材として、①「三井越後屋の表通りを行き交う人々を追っていくと、どのような身分や職業を見出せますか」、②「街路にはあちこちに武士の姿も見えますが、武士と商店(商人)との関係はどのようなだったと考えますか」、③「絵から予想できる江戸が抱えた都市問題をあげてみなさい」と発問する。生徒は、グループで考えまとめる。

- ①武士、玩具売り、そろばん屋、丁稚、籠屋、虚無僧、神道者、盲人、僧侶など。
- ②武士は、気軽に買い物をし、町人もふれ合っている。
- ③江戸の人口増加問題(農村の人口減少問



「社会科 中学生の歴史」 p.115③越後屋の店内

「駿河町街路（『熙代勝覧』）」〈ドイツ・ベルリン東洋美術館蔵〉

題)、貧民の救済問題、不法滞在者問題、ゴミ問題など。

「商業を中心とする町人のくらしを視点に、『近世は、( )の時代である。』という表現で、近世の特色を説明してみなさい」と発問する。生徒はグループで考えまとめ、その成果をクラスで交換する。

- ・近世は、江戸をはじめとする都市が栄えた時代である。
- ・近世は、経済力をもった商人が台頭した時代である。
- ・近世には、様々な都市問題が幕府の政治と社会の安定をゆるがせた。

そうした近世の特色は、どのような出来事や政策と関わっているか、これまでに学習した内容を活用して関係図をつくり、それをもとに説明してみましょう」と発問する。生徒は、グループで考え作成した関係図をもとに意見を交換する。

(近世の特色と関わる知識として)

- ・18世紀には農業、商工業、交通が発達し、商品(貨幣)経済が盛んになった。
- ・17世紀後半から18世紀には、町人文化が栄えた。
- ・江戸時代の三大改革が実施された。

### 3 新しい歴史学習の実践課題

歴史学習を「新しく」するために重要なことは、「時代の社会研究」という観点から、「中世に対する近世の特色は何か。」「現代社会は、これらの時代の社会と比較してどのような連続と変化があるか。」「時代の特色や連続と変化を説明できる典型的な事例は何か。」といった問いにもとづいて教材研究を進め、学習内容を相互に関連づけて構成していくことである。そのうえで、歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を培うために、①性(ジェンダー)、人種・民族、階層・階級、世代(年齢)、身体、地域など人間と社会の理解のための視点を多様にしておくこと、②「東アジアの中の日本」「世界の中の日本」といったグローバルな歴史理解の視点をもつこと、③多民族・多文化共生や環境問題など現代社会の諸課題を歴史的考察の対象にすること、④文化を人々に共有された価値観・規範、生活習慣の意味で捉えていくこと、⑤歴史の探究と表現の技能を教育内容化することなどが、実践課題となろう。帝国書院の平成24年度用教科書には、「新しい歴史学習」を実践するためのヒントと教材が豊富に盛り込まれている。